

『共生・協働』でまちづくり vol.37

曾於市地域づくりフォーラムを開催

テーマ：地域の魅力発見！発信！！
～共生・協働のむらづくり・その先に見えるもの～

曾於市地域づくり団体協議会「ネットワークそお」主催の「曾於市地域づくりフォーラム」が2月26日（土）末吉総合センターで開催されました。「集落再生、共生・協働、グリーンツーリズム、都市農村交流」等をテーマにしたフォーラムには、市内の地域づくり関係者など約90名の参加があり、地域の魅力を発見・発信する手法を知る学習の場になりました。

最初に、曾於市での都市農村交流の実践報告として、高千穂町秋元地区グリーンツーリズム協議会と西都市グリーンツーリズム協議会を視察した先進地研修の報告と、本市が昨年実施した「曾於市就業体験ツアー」のモニターツアーの報告がありました。

次に、かごしまグリーン・ツーリズム協議会事務局長の東川美和さんから、「農山漁村子どもプロジェクト」についての説明があり、総務省・文部科学省・農林水産省が連携して取り組むこのプロジェクトは、全国の小学生を対象に農山漁村地域で農家宿泊や農業体験をさせるものであり、農村やそこに住む人々の生活が、都市部の子どもにとて生きた教科書となると言う報告がありました。

また、農業が主産業である本市にとって、都市との交流の第一歩として、早急に取り組んで欲しいとの提案がありました。



講演では、NPO法人プロジェクト南からの潮流理事長の田代昌弘氏が、特定非営利活動促進法についてのお話をされたあと、「元気集落『高齢化率60%』からの挑戦！」と題して、同法人が取り組む南さつま市金峰町長谷集落での活動についてご講演いただきました。

講演：元気集落『高齢化率60%』からの挑戦！

長谷集落は山間部で現在16世帯30人が住み高齢化率が80%。この限界集落と関わりを持つきっかけとなったのは、「高齢者ばかりの集落が元気になる手立てはないか」という住民の熱い思いから。同法人が仕掛け人となって、鹿児島市の住民と次のような体験交流を始めた。

- ①オーナー制度による米作りとシイタケ栽培
- ②交流拠点の登り窯「ちごの滝窯」の建設
- ③交流拠点となる「ちごの滝村交流館」建設
- ④高齢者の「長谷おしゃべりクラブ」開設

地域や集落に埋もれている地域資源や文化・歴史・人材をいかに活かすかのアイディアが大事。今まで行政が支えてきた公共サービスにNPOや住民等が積極的に係わっていくことで「新しい公共」のまちづくりの展開につないで欲しい。

今回、曾於市の魅力を再認識し、地域活性化を図る手段として、各種団体が連携して協働で地域づくりに取り組むことで、地域課題を解決する様々な可能性を生み出すことに繋がることを学ぶ機会となりました。

